

青年部が管内の小学校を対象に、稲刈り体験を実施
収穫体験を通じて、食と農のつながりを実感

青年部では食農教育の一環として、小学校児童を対象に稲刈り体験学習を実施しました。この取り組みは田植えから稲刈りまでを体験して、「食と農」の大切を実感してもらおうと、10年以上前から行われています。10月11日には向能代小学校5年生が、大きく生長した稲に驚きながら丁寧に収穫し、収穫米は同校の『究極のおにぎり作り』に利用されます。また10月18日には二ツ井小学校5年生が、黄金色に染まった圃場で元気に刈り取りを行い、同校では収穫米を使って、女性部協力のもと『巻き寿司づくり』を実施します。



▲一株一株丁寧に刈り取りを行う児童たち



飼養技術向上を目的に、子牛品評会を開催
桂田安太郎さんの子牛が、みごと優等賞に輝く

J A畜産部会（小森鉄雄部会長）は10月23日、第13回子牛品評会を大野岱放牧場で開催し、農家によって大切に育てられた子牛19頭が優劣を競い合いました。県北部家畜保健衛生所職員など4名が、肩・腰のポリウムや全体のバランスなどを審査した結果、雌の部門で桂田安太郎さん（藤里町清水岱）の「あつやすさくら」が優等賞に輝きました。また去勢部門では、小山吉一さん（藤里町上矢地）の「北国」が最優等賞に選ばれました。審査員は「全体的に体つきがしっかりしており、今後の成長が楽しみ。」と期待を伺わせていました。



▲特産品の白神和牛ブランド強化を図る



稲作技術のレベルアップを目的に、J Aは10月28日と29日の両日、平成26年用肥料・農薬研修会を開催しました。28日は今年の稲作概況として異常気象対策が説明され、省力化栽培として基肥一発型肥料の利点等も話されました。また29日は米品質向上にむけ土壌改良剤の重要性が説明されたほか、近年多発している「フタオビコヤガ（アオムシ）や「イネヒメハモグリバエ」に対応した農薬、カメムシ対策としてノビエ等の除草剤が紹介されました。2日間で約200名が参加し、来年度の栽培へ向けて知識を深めていきました。

メーカーやJ Aが、薬剤の適正使用を説明
栽培技術の向上を目指し、肥料・農薬研修会を開催



▲圃場や時期に応じた薬剤使用を話す担当者

